

J-DESC 第 13 回マントル掘削 WG 会合 議事メモ

【日時】 令和 4 年 10 月 7 日（金） 10:00～11:00 オンライン会合

【参加者】（敬称略）：阿部、石橋、稲垣、海野（WG 長）、小野、片山、草野、柵山、富士原、森下、山田、山下、末廣（アドバイザー）、斎藤、監物（J-DESC 事務局）

【欠席者】（敬称略）：秋澤、黒田、島、鈴木、針金、道林

1. 第 12 回会合の議事メモ案の承認及び HP 掲載について

- 第 12 回会合の議事メモ案及びその HP 掲載について承認された。

2. 各種受賞について

- 2022 年の AGU-JpGU Taira Prize に、テキサス A&M 大学の北島弘子さんが受賞。国内では、本 WG メンバーの片山委員が日本地質学会 H.E.ナウマン賞、森下委員が日本鉱物科学会、秋澤委員が日本鉱物科学会研究奨励賞を受賞した。
- 岩石系を中心とする科学掘削・地球惑星科学の推進のためにも、各種顕彰に対する積極的な候補者のノミネーションをお願いしたい。

3. CIB、IODP Forum、EFB、ECORD-Japan WS についての情報共有（斎藤事務局長、山田 EFB 委員より報告）

- CIB：8 月 30～31 日に神戸でハイブリッド開催。FY2025 までの「ちきゅう」の科学掘削提案 2 件について審議中。
- IODP Forum・PMO 会議：9 月 13～15 日にコロンビア大学にてハイブリッド開催。米国の JR 延長や新船建造については大変厳しい現状。ANZINC は、ECORD-Japan プログラムへの協力意思。中国は独自のプログラム構想を提示。韓国は予算取りが厳しい状況。米国を含め、アライアンス構想の中で連携がオープンであることを伝えた。
- EFB：ECORD が実施するハワイ沖コーラルリーフ掘削とニューイングランド沖の Hydrogeology の実施について協議。後者は L2S として ICDP ともリンクしている。
- ECORD-Japan WS：国際と国内で協議が進んでいる。開催予定は 2023 年 1 月にオンライン、同年の秋頃に対面での実施で議論されているところ。国内準備委員会は 5 回開催。10 月 20 日に ECORD-Japan で調整会議を行いアナウンス予定。ハードロック関係に関しても WS のアジェンダ案に入っている。

4. 日本学術会議「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募について

- 概要説明：日本学術会議では、今後 20～30 年頃まで先を見通した学術振興の「グラン

ドビジョン」を示すために、新たに「未来の学術振興構想」を策定する予定。「学術の中長期研究戦略」を公募し、専門的な知見に根差した今後 20～30 年先を見通した学術振興の「ビジョン」と、その実現のために今後 10 年程度で実施することが必要な「学術研究構想」を募集する。提案は、日本学術会議科学者委員会の学術研究振興分科会等において一定の絞り込みを行った上で、分類・グループ化し、最終的に、20～30 程度の「グランドビジョン」と、その実現に必要な「学術研究構想」のリストとして取りまとめ、公表される予定。意思表示の申し込み締切りは 10 月 21 日であり、応募資格などに制約がある。フル提案の締切りは、12 月 16 日。

(<https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kenkyukeikaku/25koubo.html>)

以下は、各委員からの意見：

- 「大型研究マスタープラン」の仕切り直しの形であり、マントル掘削を中心に添えたハードロック研究に関する個別提案として出すべきである。
- 最終的に「グランドビジョン」にテーマとして残るための戦略が必要。最初からマージした状態を出すという選択肢もある。
- 誰が、もしくは、どの機関が、責任を持ってリードしていくのかも問われるところ。
- SIP などで開発されている大水深対応技術等についても、公開されている範囲で記載し、技術的な進展や課題と科学的ニーズの両方について示すと良い。
- 素粒子物理学や生命科学など、従来の概念にはなかった新規分野の参入についても記載すると良い。
- SF2050 に記載されているように、国際から見た日本への期待やアドバンテージについて記載すると良い。
- 最終的な「グランドビジョン」の中で、本提案とのリンクが想定される提案については、はじめから横のつながりを持たせておくのが良い。

→ 海野 WG 長を中心に、マントル掘削を含む海洋地殻掘削研究の新展開について提案する方向で進め、要約文案（800 字）をまとめていく。応募資格を持つ提案者については、別途期日までにメール等で協議していく。

5. その他（メンバー、次回 WG・セミナーなど）

- 道林委員のリードで、岩波書店の「科学」に海洋マントル掘削の特集号が刊行された。
- 東北大学の知のフォーラムで、本 WG に関連するワークショップが開催される予定。
- 次回の WG 会合・セミナーは、上記の「未来の学術振興構想」の進捗を踏まえつつ、年内に開催予定。

■ マントル掘削 WG セミナー13

【日時】 令和 10 月 7 日（金） 11:10-12:00

【講師】 高澤 栄一（新潟大学）

【ファシリテーター】 森下 知晃（金沢大学）

【タイトル】 マントルの酸化還元状態を探る

【要旨】 中東オマーンオフィオライトのマントルかんらん岩を広域的に調査し、沈み込み帯のマントルウェッジにおける酸化還元状態の推定を試みた。その結果、よりマントル深部のかんらん岩ほど還元的で、モホ面に近いほど酸化的となった。これらのマントル内部の分布をもたらしした要因について考察する。

（参加者：29 名）

*約 50 分間のセミナー後も、オンライン上で活発なフリーディスカッションが行われた。

//